

# いじめっ子・いじめられっ子の理由からみたいじめ防止対策に関する研究

山階 准幸 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 森川 みえこ

キーワード：いじめっ子 いじめられっ子 いじめ防止対策

## 1. 緒言

近年、いじめが社会問題として問題視されている。文部科学省によると、いじめとは「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は問わない。」と定義づけられている。

田中美子によると、いじめ発生の多数を占める場所は教室であった。しかし、いじめを防止するために教師がクラス内に長時間いることはほぼ不可能に近いと思われる。

そこで本研究では、いじめの認知件数の多い小学校・中学校時期においてのいじめ防止対策に役立つ為の資料を得ることを目的とした。

## 2. 研究方法

本研究は大学1回生、男子 65 名、女子 28 名の合計 93 名を対象に質問紙アンケート調査を実施した。質問はいじめっ子・いじめられっ子の立場と仮定し、考えてもらうものである。アンケート回答法は、選択技法（複数回答法）と自由記述法を用いた。

## 3. 結果、考察

いじめられる理由といじめる理由で男女共に最も多かったのは「自己中心的」。いじめを始めるきっかけで男女共に最も多かったのは「遊び感覚」、いじめは誰が悪いについては、男女共に最も多かったのは「どちらとも」であった。助けを求めるもので最も多かったのは、男子は「クラスの友達」女子は「部活の友達」。いじめをやめるきっかけで最も多かったのは、男子は「警察」、女子は「親、親戚」であった。対象者へのいじめ防止対策（自由記述）で最も

多かったのは、男子は「児童・生徒が主体で動く」、女子は「道德教育が必要」であった。

3つの質問において男女差がみられた。

## 4. まとめ

以上の調査結果から、いじめの防止対策が4つ考えられた。（表1）

表1. いじめ防止対策とその理由

①コミュニケーション能力向上とそれを実践する機会の提供と増加 理由：自己中心的の回答が多かった 助けを求めるものの結果を参考にした
②人権・道德教育の実施と小・中学校、近隣学校間での連携 理由：いじめを始めるきっかけ、いじめは誰が悪いか、 いじめ防止対策の自由記述結果を参考にした
③児童・生徒やその保護者との信頼関係の構築 理由：いじめをやめるきっかけの結果を参考にした
④男女ごとのいじめに対する考え方の理解と特性をとらえた対応 理由：質問内容によって男女差がみられた

以上の調査結果と文部科学省が調査した学校におけるいじめ問題に対する日常の取り組みを参考にした結果、上記の①と②を今後も継続するとともに、③「児童・生徒やその保護者との信頼関係の構築」がさらなる取り組みとして重要だと考えられる。今回の大学1回生の考えるいじめ防止対策調査により文部科学省の同調査区分にはない④「男女ごとのいじめに対する考え方の理解と特性をとらえた対応」について今後の検討課題として、新たに示唆された。

## 5. 参考文献

- ・文部科学省『平成22年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について』
- ・田中美子（2010）『「いじめ」のメカニズム』世界思想社